

## 審議会等の会議録

審議会等名	計画策定部会 第1回会議
開催日時	令和7年10月23日(木) 午後3時55分から午後4時45分まで
場所	市役所6階 全員協議会室
出席者 (意見提出者)	<p>海老名市介護保険運営協議会 委員9名 高橋委員、安田委員、内山委員、江崎委員、窪倉委員、萩原委員、藤沢委員、鈴木委員、辻委員</p> <p>事務局 11名 保健福祉部 参事兼介護保険課長 青野 昌樹 介護保険課 介護保険係長 永田 啓吾 介護保険課 介護認定係長 石井 康子 介護保険課 事業者支援係長 高田 耕平 介護保険課 副主幹 遠藤 誉裕 介護保険課 主査 森谷 孝人 地域包括ケア推進課 課長 三輪 徹 地域包括ケア推進課 課長補佐兼高齢者いきがい係長 伏見 貴之 地域包括ケア推進課 主幹兼高齢者支援係長 澁谷 晶子 地域包括ケア推進課 主査 遠藤 貴人 地域包括ケア推進課 主事 宇都宮 優花</p> <p>えびな高齢者プラン 21 策定委託業者 株式会社サーベイリサーチセンター (以下、SRC) 松久氏、板倉氏</p>
傍聴人数	0人
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 非公開
一部非公開・非公開の理由	

議 題	<p>(1) 計画策定部会について</p> <p>(2) えびな高齢者プラン 21【第 10 期】策定スケジュールについて</p> <p>(3) えびな高齢者プラン 21【第 10 期】策定のための各調査について</p> <p>(4) その他</p>
資 料	<p>次第</p> <p>資料 1 号 計画策定部会について</p> <p>資料 2 号 えびな高齢者プラン 21【第 10 期】策定スケジュールについて</p> <p>事前配布 アンケート調査一式</p>

## ○会議の内容（提出された意見及びそれに対する回答）

<b>議題（１）計画策定部会について</b>	
<b>【会長】</b>	<p>今期は認知症基本法に基づいた計画も入るということです。評価がとても大事だと思いますが、これについてもコメントが入っています。</p> <p>委員の皆様から何かご意見ありますでしょうか。</p> <p>よろしいですか。それでは、このかたちで進めていきます。</p>
<b>議題（２）えびな高齢者プラン21【第10期】策定スケジュールについて</b>	
<b>【会長】</b>	<p>策定のスケジュール案が示されましたが、何かご意見ありますでしょうか。</p> <p>評価は新しい委員がすると先ほど言っていました、第9期の評価は、先程の介護保険運営協議会で行ったということでしょうか。</p>
<b>【事務局】</b>	<p>えびな高齢者プラン21【第9期】の令和6年度分については、先ほどの介護保険運営協議会にて評価をさせていただいたところでございます。続いて、えびな高齢者プラン21【第9期】の令和7年度分については、令和8年度になりましてから、この計画策定部会の現在の委員の皆様で評価をしていただくという流れで考えています。</p>
<b>【会長】</b>	<p>年度ごとにするという事ですね。</p>
<b>【事務局】</b>	<p>はい、その通りでございます。</p>
<b>【会長】</b>	<p>他にご意見ありますでしょうか。</p>
<b>【副会長】</b>	<p>そうすると、今日が7年の10月なので、令和8年の10月あたりの第2回策定部会でえびな高齢者プラン21【第9期】の令和7年度分について評価するというスケジュールになると思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>今年の計画の評価は、今年のタイミングを見ると、パブコメ検討の第3回目くらいでやるのですか。それとも、8月頃の策定部会でできるのですか。</p>
<b>【事務局】</b>	<p>はい。現時点において令和7年度分の評価をいつ行うかについては大変申し訳ございませんが決まっておりはしません。ただ、副会長のおっしゃったとおり、パブコメ検討の辺りには行えたらいいかという考えはございます。</p>
<b>【会長】</b>	<p>ご意見ありますでしょうか。</p>
<b>【事務局】</b>	<p>補足をさせていただきます。</p> <p>評価ですが、あくまでもこちらの策定部会の実施の回数については案となっております。状況によっては臨時部会を開くことも考えておりますので、その都度必要なときに必要な部会を開いてやっていくということも考えております。評価については必要な時期にできればと考えております。</p>

【副会長】	そうしますと、やはり素案を固める前には評価が終わっていないと、PDCAとして成り立たないので、もう少し早めの評価タイミングを事務局のほうで図っていただきたいと思います。
【事務局】	ご意見として頂戴いたしまして、こちらでも検討していきます。ありがとうございます。
【委員】	今おっしゃっていましたが、令和7年の評価というよりも、第9期の総合評価と考えてよろしいのでしょうか。そうしないと何もならないと思います。せっかく第9期の計画を立てたので、それを基にして第10期の計画を立てるのではないですか。
【事務局】	委員のおっしゃるとおり、評価自体は年度ごとにさせていただきますが、第9期の評価をもとに第10期をつくるというイメージになります。今、委員がおっしゃったような考え方で良いかと思います。
【会長】	ありがとうございます。他によろしいですか。 今、おっしゃったとおり、これは資料2の令和8年度の5月と6月の間のところに第1回と書いてあり、事業評価と書いて2重丸がついているところが第9期の評価を行うということですね。それで、よろしいですか。
【事務局】	はい、そうです。
【会長】	その上に計画骨子案の検討と書いてあり、評価もできていないのに骨子ができるのはおかしいですね。先ほどおっしゃったように、もう少し評価を早めにしてもらったほうが良いと思います。そこは検討していただきたい。どうでしょう。皆さん、ご意見ありませんか。
【委員一同】	異議なし。
【事務局】	検討させていただきますので、よろしく願いいたします。
<b>議題 (3) えびな高齢者プラン21【第10期】策定のための各調査について</b>	
【会長】	皆さん事前に渡されていますが、あまり読み込めないと思います。ご意見はありますか。
【副会長】	日常生活圏域ニーズ調査、調査票の1です。前回の計画で急に日常圏域を1から6に、パブコメの前段階で変えてしまい、日常圏域ごとのクロス調査ができていないため、ここでたぶん力を入れるのだと思っていました。委託の仕様上では6,000となっていたが、今回2,800に落としています。SRCの皆さんは、統計の専門家ですが、2,800でよろしいのでしょうか。
【SRC】	配布については6,000件で考えておりまして、回収が2,800件は想定できるだろうということで、表にサンプル数約2,800件と記載させていただいています。以上です。

【委員】	第9期のときは前年の間、日常生活圏域を1区域でやっていました。もう海老名市全体を1つでやっていましたが、我々のときから6圏域に分けました。これは包括支援の対象で6区域に分けたのですが、6,000というのは、6で割ったということですか。1圏域1,000という感じで、回収はどうか、実際にやってみないとわかりません。ただ、配布するのは、6,000とおっしゃいましたが、各地域1,000件ずつと考えてよろしいですか。
【SRC】	各圏域6圏域、介護認定を受けていない方のうちの6圏域と、要支援1と2を受けている方を対象としておりますので、介護認定を受けていない6圏域の方で約850件と要支援1、要支援2の方件数というので、合計6,000件と考えてあるものです。
【委員】	1圏域にはどれくらいになるわけですか。
【SRC】	発送数はおよそ850件程度になるかなと。
【委員】	それは65歳以上の高齢者で、要介護認定者を除くと。
【SRC】	1圏域で850件程度の配布となっております。
【委員】	そうすると、6,000件にならないのでは。
【事務局】	6圏域プラス1単位の調査サンプルが必要で、合計7単位で調査を行うので、それでほしい6,000件です。
【委員】	6圏域プラス1単位とはどういうことですか。
【事務局】	今、お話いただきましたが、認定を受けていない高齢者に関しては6圏域調査を行う、圏域ごとに調査を行います。認定を受けていて要支援1・2の方については、受けている方の人数が少ないということもありましたので、市全体として調査を行うということで、6圏域プラス市全体の1つの単位、合計7単位で調査を行うことを考えております。
【副会長】	要するに、要支援1・2の人は少ないから、6で割るのではなく、1つとしてアンケートをまとめますということですね。
【事務局】	その通りです。
【副会長】	そして、特に認定を受けていない人は6圏域でやりますということですか。
【事務局】	圏域ごとで調査を行いたいと思います。
【委員】	この要介護認定者とは、要支援の1・2の人も入っているわけですか。
【副会長】	要支援はこの日常生活圏域には入らない。
【委員】	それでは言っていることが矛盾しています。
【SRC】	要支援1・2の人は含まれます。
【副会長】	クロス集計をしないということですか。

【委員】	では、その1圏域に、要支援ではなく、一般の高齢者はどれくらいの数ですか。
【事務局】	はい、1圏域850件を想定しております。
【事務局】	圏域ごとで若干人数が異なりまして、南部の人数はかなり多いです。そういったところを按分しながら、人数は概ね850くらいとイメージしていただけると、6×850で、残りが要支援の方とイメージしていただけると一番わかりやすいかと思います。基本的に、今まで確かに1圏域でしか調査を行っていませんでしたが、第10期に関しては6圏域でやっていくことは確実にとなっておりますので、よろしくお願いたします。
【委員】	例えば在宅生活改善調査の40件というのは、返送が40件程度と想定して発送するかたちになるのですか。何件くらい配布するのですか。これも基本的に、全部6圏域ごとになるのでしょうか。または、海老名市全域でやるのですか。 1番の介護予防・日常生活圏域だけは6単位プラス1でやって、あとの2から全部は、海老名市全域でやるのですか。
【SRC】	はい、調査結果の集計としてはそちらの認識のとおりになります。
【委員】	発送件数は。
【SRC松久】	発送数はまだ確定しきれていない状況です。
【委員】	40件を6圏域に分けたらかなり少ないなと思いました。
【SRC】	はい、回収想定が40件くらいということです。
【委員】	わかりました。それで結構です。
【副会長】	最後に、前回の回収率を見てください。日常生活圏域以外は仕方ないですが、事業系の回収率は、50%とあります。この回収率の低さが、海老名市の介護保険の保険者と事業者との関係を出しています。先程、私が海老名市は少し成績が悪いと言ったのはこういったところに表れています。そのため、今回は必ず回収率を上げるために、時間に余裕を持ちながら、現場に行き説明するようなかたちをとらないと、また回収率の悪い、精度の低い調査になると思います。
【委員】	それであればもっと発送数を増やすなど、考えないといけなのではないでしょうか。
【会長】	アンケートに回答していない施設こそ問題だということですか。
【副会長】	施設というより、時間的な余裕が短いなどの問題がありました。きちんと説明して皆さんが回答できるようにしなかったというので、非常に短い期間でアンケートを回収したのだらうと。知らない間に出していたという事業者や職員もいたと私は承知しています。
【会長】	今回のスケジュールはどうですか。

【SRC】	調査のスケジュールですが、調査期間は一応3週間を想定しております。12月の初めから年末にかけて調査期間を設けております。ただ、年末でお忙しいところもあるかと思っておりますので、遅れて投函してくる方も可能な範囲で拾えるかたちにしたいと考えております。以上です。
【会長】	その際に、委員から出る意見があると思いますが、意見が反映されるようにするには、いつ頃までに言えば良いのでしょうか。
【事務局】	アンケート調査についてのご意見ということで、1週間程度でお願いしたいです。来週末までには事務局にご意見いただければと思います。
【委員】	アンケートを書いて提出する側の立場になって考えたいと思います。送られてきた資料に私はさっと目を通しましたが、やはり日々の業務に追われて大変疲れている業者さんの方になるべく回収してもらうためには、このアンケートをする方の熱意、海老名の福祉行政をよくしていくためだということを、しっかり相手方に分かっていたいただければ、20～30分かけても回答するのではないかと思います。しっかり書いて託すという、その気持ちに事業者の代表の方になっていただくためには、こちらの熱意を示していただきたいなと思います。以上です。
【会長】	ありがとうございます。よろしく申し上げます。
【委員】	これは基本、紙ベースということでしょうか。 調査票1は紙のほうが確実で良いかと思いますが、事業者は時間がないので、紙ベースでかいている暇がないと思います。事業者にもよりますが、若い人が多いので、例えばQRコードで読み込んで回答できるほうがより答えやすく、個人情報の問題があるのかもしれませんが、集計するのも楽なのではないかと思うため検討していただきたいです。
【委員】	いいと思いますね。
【会長】	どうですか。
【委員】	紙かネットかを選べるといいですね。
【委員】	国勢調査もQRコードが貼ってあったりするので。
【SRC】	確かにWEB調査もあったほうが良いというのはその通りだと思いますが、今回は紙のみで調査を実施することが決まっております。次回、そういったご意見も踏まえてWEB調査も併用するなど検討していきたいと考えています。以上でございます。
【副会長】	そういった際には、必ず事業者の連絡会などに顔を出して、このアンケートについてご理解いただき、よろしく申し上げますというアウトリーチを行い、丁寧な対応が必要だと思っております。
【委員】	本当にそう思います、

<b>【会長】</b>	はい、よろしくお願いします。 いろいろな会議体がありますので、情報提供をお願いしたいと思います。 電子化を図るとするのは第11期のテーマということにさせていただきたいと思います。
<b>議題 (3)その他</b>	
<b>【会長】</b>	何かその他ご意見ありますか。 特になければ、これで議事を終えて事務局のほうにお返しします。

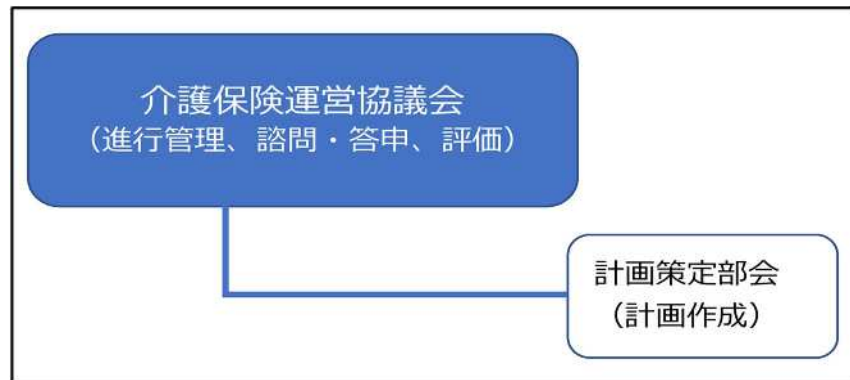
## 計画策定部会について

**えびな高齢者プラン 21 を策定する計画策定部会の位置付け、役割などを次のとおり説明いたします。**

【計画策定部会の位置付け（介護保険運営協議会との関係性）】

介護保険運営協議会の下部機関として部会（計画策定部会）を設置しました。

皆様は計画策定部会委員（介護保険運営協議会臨時委員）となります。



【計画策定部会の主な役割】

1 えびな高齢者プラン 21 の策定に関すること

【第 9 期】までは、老人福祉法における「市町村老人福祉計画」、介護保険法における「介護保険事業計画」を一体化した計画を策定していましたが、【第 10 期】からは、認知症基本法における「認知症施策推進計画」も盛り込むことを検討しております。

2 えびな高齢者プラン 21 の評価に関すること

従来は、計画策定後に計画策定委員会が解散するため、高齢者保健福祉計画を管理・評価する機関がありませんでしたが、海老名市介護保険運営協議会条例を改正し、計画策定部会で年度ごとに行います。

令和 7 年度の評価は現在の委員の皆様で行いますが、えびな高齢者プラン 21【第 10 期】は、令和 9 年度以降に次期委員が行います。



# えびな高齢者プラン 21【第 10 期】策定のためのアンケート調査について

## 1 目的

令和 8 年度に策定する「えびな高齢者プラン 21【第 10 期】」の資料とするため、高齢者等の生活実態や意向を把握し、計画策定に反映していくこと、また、日常生活圏域ごとの実態も把握し、地域の実情に応じた取組に活かしていくことを目的として実施します。

## 2 国から示された調査の概要

名称	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
目的	要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定すること。 介護予防・日常生活支援総合事業の評価に活用すること。	「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討すること。
対象者	要介護 1～5 以外の高齢者（要支援者・総合事業対象者・その他一般高齢者）	主に在宅で要支援・要介護認定を受けている方

調査項目は必須項目とオプション項目があり、地域包括ケア「見える化」システムに登録することで、データの経年比較や他地域のデータとの比較を行うことができます。ただし、例示された設問文・選択肢どおりに調査を行うことが登録の要件になっています。

名称	在宅生活改善調査	居所変更実態調査	介護人材実態調査
目的	「家族等介護者の就労継続」、「要介護者の適切な在宅生活の継続」のために、在宅で生活している要介護者の実態や必要な支援を把握する。	「住み慣れた施設等における生活の継続」のために、過去 1 年間の新規入居・退去の流れや、退去の理由などを把握する。	「介護人材の確保、適切な役割分担の実現」のために、過去 1 年間の採用・離職の状況、従業員の過不足・確保状況などを把握する。
対象者	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、看護小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センターのケアマネジャー	住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、軽費老人ホーム、グループホーム、（地域密着型）特定施設、介護老人保健施設、介護医療院、（地域密着型）特別養護老人ホーム	施設・居住系サービス、通所系サービス、訪問系サービス、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護

### 3 調査の概要

調査		対象者	サンプル数
調査1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		65歳以上の高齢者 (要介護認定者を除く)	約2,800件
調査2 在宅介護実態調査		65歳以上の高齢者のうち、在宅生活 をしている要支援認定者及び要介 護認定者	約600件
調査3 在宅生活改善調査	事業所票	居宅介護支援事業所、小規模多機能 型居宅介護事業所、看護小規模多機 能型居宅介護事業所の 代表者または管理者	約40件
	利用者票		約40件
調査4 居所変更実態調査		施設・居住系サービス事業所(サー ビス付高齢者住宅、住宅型有料老人 ホーム)の 代表者または管理者	約50件
調査5 介護人材実態調査	<施設系・通所系> 事業所票	施設・居住系サービス、通所系サー ビス、訪問系サービスの 代表者または管理者	約150件
	<訪問系> 事業所票	小規模多機能型居宅介護、看護小規 模多機能型居宅介護、定期巡回・随 時対応型訪問介護看護の 代表者または管理者	
	<訪問系> 職員票	小規模多機能型居宅介護、看護小規 模多機能型居宅介護、定期巡回・随 時対応型訪問介護看護の 職員個人	

### 4 調査スケジュール(予定)

令和7年10月～11月初旬	調査票作成・確定
11月中旬～	調査票発送準備
12月	調査実施
令和8年1月～2月	集計分析
3月	アンケート調査報告書作成

## 5 前回調査票配布・回収状況

調査		配布数	回収数	回収率
調査1 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査		1,650 件	1,159 件	70.2%
調査2 在宅介護実態調査		997 件	670 件	67.2%
調査3 在宅生活改善調査	事業所票	29 件	18 件	62.1%
	利用者票	29 件	17 件	58.6%
調査4 居所変更実態調査		39 件	24 件	61.5%
調査5 介護人材実態調査	<施設系・通所系> 事業所票	154 件	77 件	50%
	<訪問系> 事業所票			
	<訪問系> 職員票			